

～株式投資で勝つ方法～ ―エライ人の金言編―  
その2 ピーター・リンチに学ぶ (全5回)

2005/06/03 太田寿一

第2回 指南書というより自叙伝

ピーター・リンチの投資手法は、成長を見込まれる企業を買う『成長株投資』と呼ばれる手法で、バフェットの師であるベンジャミン・グレアムの『割安株投資』と少し違いがあります。ピーターが求めるのは「10倍株」と呼ばれる数年から十数年にわたって株価が10倍になる株だけです。

成長株投資は割安株投資ほど株の売買に関する明確なルールがありません(例えば後者ならDCF法によって求めた株価より安いときに買い、高くなったら売る)。主に“勘”によって投資が行われるわけですが、彼は自伝の中で個人投資家に向けて、実践的な金言を多く残しています。それを紹介していくことにしましょう。

**ピーター・リンチ 20の黄金律 (一部改訂)**

- 1、土地勘のある企業に投資することによって、あなたは強みを発揮でき、プロをも打ち負かすことが可能になる**
- 2、専門家集団を無視することで、市場を打ち負かすことが出来る**
- 3、株価の動きと企業業績の動きは、長期にわたった場合密接な関係がある。成功している企業を辛抱強く持ち続けることが必ず良い結果に結びつく**
- 4、何をどんな理由で保有しているのか知っていなければならない。「大丈夫、この銘柄は上がる」式のアプローチはあてにならない**
- 5、大穴は常に外れるものである**
- 6、株を買うということは子供を養うのと同じことである。世話を見ることが出来なくなるくらい持ってはいけない。個人投資家であれば5銘柄までとする**
- 7、投資したいという株が見つからないなら、見つかるまで資金は銀行に預けておくのがよい**
- 8、企業の財務状態を十分理解しないうちに投資してはならない**
- 9、人気業界の人気企業より、冷え切った成長性の乏しい業界でうまくやっている企業へ投資したほうが良い結果に結びつく**
- 10、小型企業への投資は、その企業が利益を出し始めるまで控えたほうがよい**
- 11、10万円投資すれば失う金額は最高で10万円である。もし辛抱強く待てるなら、100万円以上増やすことは可能である。そのためにもよい企業を数社見つけるこ**

**とが重要である**

- 12、どの業界でも、どの地域でも、観察力が鋭ければアマチュアであってもプロが見つける以前に高成長企業を見出すことは可能である**
- 13、株価の下落は2月の北海道に吹雪が吹き荒れるのと同じくらい頻繁に起こることである。株価の下落は割安株を拾う絶好の機会である**
- 14、株式投資で利益を上げるのに必要な知能程度は誰もが持ち合わせている。ただ誰もの肝が据わっているわけではない。慌てふためいて何もかも売却してしまうような性格なら株や投資信託は避けたほうがよい**
- 15、心配の種はどこにでもある。後ろ向きな考えやニュースに耳を貸してはいけない。企業の財務状況が悪化しているのなら売ってもよいが、この世の終わりが来るといふ予言は売理由にならない**
- 16、正確に金利・経済・株式市場を予測できる者はいない。そのような予測は忘れ去って、投資した企業に何が起きているかに注意を払うべきである。**
- 17、株式市場にはいつでもプロが見過ごしている企業群がある**
- 18、調査なしで投資することは、手札を見ないでポーカーをするのと同じである。**
- 19、優良企業に投資しているのなら、時間はあなたの味方になる。我慢できるからである。オプションを保有していると、時間は敵になる**
- 20、十分な銘柄調査の結果できあがったポートフォリオは、債券やその他の金融資産のポートフォリオよりも長期的には利回りはよい。長期であっても選別が不十分であれば、ベッドの下に現金を置いておくほうがましである**

◇ピーター・リンチの金言コーナー◇

- ・ビジネスの世界では競争よりむしろ、独占の方が健全である。
- ・バックミラーからは未来は見えない。

参考文献 『ピーター・リンチの株式投資の法則』（1994）

ピーター・リンチ（著）、酒巻英雄（監訳）、ダイヤモンド社

『ピーター・リンチの株で勝つーアマの知恵でプロを出し抜け』（2001）

P・リンチ&J・ロスチャイルド（著）、三原淳雄・土屋安衛（訳）、ダイヤモンド社

『マネーマスターズ列伝〜大投資家たちはこうして生まれた』（2000）

ジョン・トレイン（著）、坐古義之・白杵元春（訳）、日本経済新聞社